

令和7年度 第1回身延町総合計画審議会 議事録（要旨）

日 時	令和7年7月7日（月） 14：00～16：00	場 所	中富町総合会館 2 階 大ホール
出席者	望月幹也 町長、遠藤基 副町長 委 員：佐野慈一 委員長、若林由美 副委員長、遠藤綾子 委員、笠井雄一 委員、 加藤新 委員、金岡義朝 委員、小林あゆみ 委員、佐野昇 委員、田中一 泰 委員、田中奈巳 委員、深澤香里 委員、深山光信 委員、古屋徳至 委 員、箕浦一哉 委員、望月三千夫 委員、若林裕子 委員 （欠席）浅野秀人 副委員、池上要靖 委員、畑野顕 委員、矢崎道紀 委員 事務局：身延町企画政策課 高野課長、前澤主幹、依田副主幹 山梨総合研究所：渡辺、在原、日原		
次第			
1 開会			
2 委嘱状交付			
3 町長あいさつ			
4 職員紹介並びに委員自己紹介			
5 役員選出			
会長：佐野慈一委員、副会長：浅野秀人委員、若林由美委員 を選出			
6 会長あいさつ			
7 諮問			
8 議事			
（1）身延町総合計画及び総合戦略について			
（2）計画策定スケジュールについて			
（3）町民アンケートの実施について			
（4）その他			
9 閉会			
＜以下、議事録＞			
議題（1）身延町総合計画及び総合戦略について			
事務局より資料1「身延町総合計画及び総合戦略について」を説明			
議 長 ：意見・質問あるか。			
A委員 ：町民WS は前回も行ったのか。			
事務局 ：前回も行っていない。今回は、若者や女性の多様な意見を取り入れる国の方針を踏 まえて実施。WS のメンバーは本来であれば公募するが、今回は委員の皆さまにもご 参加いただき、多様な立場から活発なご意見をいただきたい。実施は4回程度予定。			
B委員 ：総合計画と総合戦略の一体化について、具体的なイメージを教えてほしい。内容を			

共通で検討するという意味か、出来上がる冊子も一緒になるのか。

事務局 : 現時点の想定だと、総合計画のなかに総合戦略の章立てをして冊子も一体化する予定。国が示す総合戦略策定及び効果検証の手引きでも、総合計画と総合戦略の一体的な策定は可能である旨が言及されている。

議題（２）計画策定スケジュールについて

事務局より資料２「計画策定スケジュールについて」を説明

議長 : 意見・質問あるか。

C委員 : 各審議会等の日程はいつわかるのか。早めに教えてもらえると調整しやすい。

事務局 : 基本的には、審議会開催時に次回の日程調整表を配布して調整する。

D委員 : 次期計画の策定に向けて、総合戦略の検証作業は細かに行ってほしい。

事務局 : 承知した。総合戦略のアクションプランを活用して効果検証を実施していく。

E委員 : 審議会を欠席する場合は、事前資料を踏まえて意見出しはできるか。

事務局 : 前回策定時の流れを踏襲し、欠席者には事前に意見を出してもらう予定。

F委員 : スケジュールの調整に LINE などデジタルを活用してもらえないか。

事務局 : LINE の活用は難しい。なるべく余裕を持った調整を心がける。また、調整表のやり取りはメールで出来る人はメールでの対応は可能。

議題（３）町民アンケートの実施について

事務局より資料３「町民アンケートの実施について」を説明。

議長 : 全体として、意見・質問あるか。

B委員 : 自治体のこの手のアンケートは設問数が多くなりがちで致し方ないが、回答率が40%だった場合、回答できなかった残りの60%がいることを理解したうえでデータを活用すべき。督促を出すなど、回答率を上げる工夫は何か考えているか。

事務局 : 督促状の発出は想定していない。調査票には見込みの回答時間を明記する。

B委員 : Well-Being 指標に特化した回答フォームを作成することについて、無作為抽出で選定したサンプルに統計的処理を施していないサンプルを加えることは、データの信頼性に何かしら影響を与えないか。

事務局 : 集計は別に実施。Well-Being 指標の回答は、国が公表するダッシュボードに反映するときのみ活用する。

G委員 : Well-Being の設問No.78 と 79 には選択肢があるか。「行政のデジタルサービス」の具体的なイメージが湧かない。

事務局 : 回答は「満足度」と「重要度」を数値で段階的に評価してもらう形式。町民の皆さ

まの感覚を答えてもらいたい。例えば、昨年度には防災アプリを導入したが、そういった事例を踏まえてデジタル化の進捗度をお答えいただきたい。

G委員 : 70～80 代には答えづらい。デジタルサービスや、Well-Being の言葉も曖昧模糊。

事務局 : Well-Being は「地域幸福度」と併記したり、広報に回答用の QR コードと併せて Well-Being の説明ページへ飛ぶ QR コードを掲載して理解を促したい。

H委員 : 正直このアンケートは難しい。回答すればクオカードがもらえるなど、ご褒美をぶらさげれば回答率が上がるのではないかな。

事務局 : 設問数の多さはよく認識している。粗品の同封も検討したが予算的に厳しく断念した。時間的には 15 分程度というところで、なるべく理解を促していきたい。

事務局 : 最終設問の自由記述について、町への要望ではなく建設的な提案をいただけるような設問文を 3 案考えた。本日、委員の皆さまの多数決で最終候補を決定したい。

→ 途中退席者を含め、3 番目の案が多数となり決定。

議題（４）その他

事務局 : 次回の第 1 回町民 WS は 8 月 29 日（金）午後 to 実施予定。改めて、開催通知を送付する。

議 長 : 意見・質問あるか。

E 委員 : 町民 WS に職員は参加しないのか。町民と一緒に計画策定していく主旨であるならば、職員も参加した方が良いのではないかな。

事務局 : 今回は町民の皆さまのざっくばらんな意見を聞きたいため、町民のみで行う。進行も受託業者の山梨総研が担い、事務局である企画政策課の職員が遠巻きに同席する予定。

E 委員 : 職員研修は具体的に何をするのか。町民の意見と乖離する心配はないか。

事務局 : 職員研修では、政策の立案方法を学んだり現行計画の振り返りを行う。職員へは町民 WS や審議会で挙げた意見も共有して計画作りを進めていくので、皆さまのご意見が無駄になることはない。

A 委員 : 町の総合計画は町民にとって縁遠い存在。今回から町民 WS やアンケートを実施するならば、町民の意見を踏まえた活きる計画をぜひ策定していただきたい。

事務局 : 承知した。WS や職員研修の内容は今後の流れも踏まえて柔軟に対応していく。

以上